

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890700028
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム 龍星
所在地	愛媛県大洲市柚木字王子ヶ原587番地1
自己評価作成日	平成27年7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 9 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四方山に囲まれ、近くに肱川も流れており、四季折々の風景を見ることができ、身近に四季を感じることができる環境である。夏には、居室より窓越しに花火観賞もでき、利用者様の楽しみとなっている。事業所で力を入れていることは、利用者様との係わりを大切に、喜怒哀楽を共有することである。利用者さま一人ひとりの入所前の生活(楽しみ)が継続できるよう支援している。飲酒、喫煙も家族と相談しながら対応している。医療においても、週1回の医療連携看護師の訪問、担当医師の定期的な往診により、日常の健康管理や緊急の場合も迅速に対応できるような体制ができています。また、利用者様のサービス計画書においても、職員の考えで作成するのではなく、本人・家族さまの意向も配慮しながら、一緒に作成している。サービス担当者会議に出席できないご家族には事前に意見・意向を伺いながら作成できるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は肱川を見下ろす高台に位置し毎年水天宮花火大会が鑑賞でき事業所の楽しいイベントの一つになっている。施設長はじめ職員は利用者に家庭の延長として出来ることはしてもらい自由に過ごしてほしいと願い、時間のゆるす限り利用者へ寄り添い傾聴を心がけて利用者本位の支援に努めている。施設長や管理者が移動交代となり事業所も開設して10年を迎えることから初心に戻り、地域とのかかわりを深めながら事業所の発展を目指す覚悟が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム龍星

(ユニット名) 第1ユニット

記入者(管理者)

氏名 越智 保子

評価完了日 平成27年 7 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所として、三つの理念があり、玄関先に掲示している。年間のホーム目標も設定しており、地域との関わりを大切にし、馴染みの生活ができるよう努力している。又、個人目標も設定しその目標に添って支援できるよう努力している。	
			(外部評価) 利用者第一である法人の方針を基本にして事業所の理念が作成されている。また、年間目標を掲げ利用者とかかわり方や言葉づかいなどを念頭におき、利用者本位の生活ができるよう支援している。朝礼時に職員全員で唱和し意識づけを行っている。同時に職員の個人目標を定め、年度末に自己評価を行うなど、より良い支援ができるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 施設まわりに民家が少なく、地域の一員としての交流があまりできていないのが現状である。地域の常会とか清掃に参加し、交流を深められるよう、また、立地条件にとらわれず色々工夫しながら改善していきたいと思っている。保育所、中学校との交流は出来ている。	
			(外部評価) 保育園児の訪問で歌や踊りの披露があり、利用者の楽しみとなっている。また、中学生のボランティアの受け入れを行っている。地域との交流が少ない現状で施設長が交代したこともあり、挨拶を兼ね地域との付き合いが出来るよう出向く方針である。	施設長が異動交代し、事業所と地域との交流が少ないと認識していることから、新管理者と共に地域に向けて事業所の情報発信に努め、地域の中の事業所となるよう期待したい。地域交流が増えることで、運営推進会議への参加や防災訓練などにも協力体制ができることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域との関わりにおいて、しっかりとした基礎ができておらず、まだまだ不十分である。併設のデイサービスと連携しながら、相談援助、また、介護技術を教えられるような、環境づくりを作りたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二ヶ月に一回開催しているが、構成員も少なく、会議内容も単調になっている。これからは、多方面からの意見が得られるよう、学校関係、警察、消防署等に参加の呼びかけを行い、有意義な会議になるよう取り組んでいきたい。	
			(外部評価) 運営推進会議には利用者や家族、民生委員、市職員、他事業所の参加があり、事業所の説明や活動報告、時には病気についての勉強を題材に入れ会議が行われている。他事業所とは情報交換ができ貴重な意見を聞くことができている。今後は地域とかわりながら、参加者が固定しないよう多様な意見が聞けるよう取り組む方針である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の開催するサービス担当者会議、連絡会に参加しており、情報を交換している。又、市担当者が運営推進会議のメンバーでもある。また、定期的な介護相談員の訪問もあり、利用者の良き相談相手となっている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市職員の参加があり、事業所の様子を知ってもらうなど良い関係が出来ている。今年担当者が交代したが連絡事項などスムーズにできている。ヒヤリハットの報告も迅速に行われている。また定期的に介護相談員を受け入れ、利用者の話しをゆっくり聞いてもらうことができている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日勤帯は玄関入り口に施錠はしておらず、利用者の行動範囲を制限しないよう支援している。帰宅願望が強く、玄関戸口を開けられる利用者もいるが、見守りを強化し事故に繋がらないよう支援している。	
			(外部評価) 現在、帰宅願望がある利用者には職員が寄り添い一緒に玄関先に出たり、家族に電話をして声を聞いてもらうなどの対応をしている。また威圧的な言動、命令口調などにならないよう注意を払い、慣れ親しんだ方言を使うことで穏やかな会話ができています。勉強会や研修等にも参加しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の身体面、精神面に注意し、虐待が起こらないよう細心の注意を払っている。また、職員のストレス（言動）が利用者に向けられないよう、制度の理解を深めるためにも勉強会を開催し防止に努めていきたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、学ぶ機会を持っている。権利擁護に関する制度を利用している利用者もいるので、職員は概ね理解できているが、新人職員は理解が不十分なため、勉強会を設けていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前調査だけではなく、出来る限りホームについて、理解、納得をして頂けるよう見学を促し、説明するようにしている。また、契約時には、十分説明し、納得、同意を得られるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関入り口に意見箱を用意しており、自由に投函できるよう配慮している。また、契約時、弊社相談窓口、行政相談窓口、国保連の相談窓口も紹介している。日々の業務の中で、利用者、家族の意見に傾聴できるよう心掛けている。 (外部評価) 家族から「母をおしゃれにしてほしい」との意見があり職員と話し合ったところ、利用者が好む服は固定していたため家族はいつも同じ服を着ていることが多いと勘違いされたのだろうと気付かされたこともあった。面会時には少しでも意見や要望を聞くよう努めている。担当者会議も家族の都合のいい日を選んでもらうことで参加しやすく意見が出るように工夫している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のカンファレンス時に話し合い、月1度の管理者会議において意見、提案ができる機会を設けている。 (外部評価) 職員からは活発な意見が出ている。漬物上手な利用者に先生になってもらい漬物づくりをしたこと、お盆に祭壇をかざって先祖供養したこと、花火大会前に事業所周辺の片付けをしたことなど、利用者の声を聞きながら意見を出し積極的に行動に移している。新施設長、新管理者と職員の関係性はとても良く、施設長は職員の話をよく聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 本年度より自己評価を取り入れ、職員一人一人を評価し、給与形態も個々の職員の努力や実績で支給されるようになり、職員が向上心を持って働けるような職場環境になってきている。また、能力に応じた昇格も視野に入れている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会に参加できる機会を設けている。ホーム内や法人内、又は、社外の研修にさんかできるよう、職員一人ひとりに参加を促し、育成に努めている。ホーム内での勉強会については、年間テーマを決め、毎月職員が担当し学習できる機会を設けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市が開催しているサービス担当者会議において、同業者と交流できる機会を得ている。また、市内の各グループホームによる視察訪問もあり、職員間の交流、質の向上に繋がる機会を得ている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居相談時、見学時、また、事前調査時に本人の不安な気持ちを汲み取り、傾聴の姿勢を大切にしながら安心して頂けるような信頼関係を築けるよう努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 可能な限り、担当ケアマネに情報収集を行い、家族の心情や状態を把握した上で、不安なことや意向などを傾聴するよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族の意向を聞き、何を望んでいるのかを考えながら、支援内容に応じたアドバイスを行っている。他のサービスについて知識を深め、より適したサービス内容の見極めを行うことができるよう自己向上に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者と一緒に行事を楽しんだり、家事をしたりと感謝の気持ちを持ち、言葉にも表しながら、関わっている。時には冗談を言い、口喧嘩をしたり家族としての関係性を築いている。今後も継続し、喜怒哀楽を共有しながら関係性を深めていきたい。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の中には「お世話して頂いている」と思われており、ケアプランなどホーム任せの回答が多い。共に支援者としてなりうるような関係性を構築する必要がある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人や場所との関係は希薄である。馴染みの方の訪問も少なく、家族の協力を得ながら馴染みの人、場所の関係が継続できるよう支援して行く必要がある。 (外部評価) 近所の方が時々訪問してくれる利用者もいるが、馴染みの人や場所が希薄なのが現状である。行事イベントなどはデイサービスと合同で行うことから、利用者同士や職員との新しい関係もできている。先日、利用者が漬けた漬物が出来上がり退職した職員に食べてもらいたいと電話をかけ、取りに来てもらったと微笑ましいやり取りがあった。施設長や管理者は、継続して支援できるよう努力していきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い利用者に関しては、席を隣席に設けたり、利用者同士の関わりが持てるよう支援している。時には、言い争いもあるが、職員が間に入り、利用者の性格も考慮しながら、良い関係が保てるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了してから、本人・家族の相談もなくその後の関係性がないのが現状である。入居している間に本人・家族とも何でも言い合える信頼関係を築けるよう努力していきたい。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者とは個別に向き合うことで、表情やしぐさ、言動から思いや意向をくみ取る努力を行っている。入浴時、就寝前に居室に訪問し利用者の本音が言えるような環境作りに努めている。 (外部評価) 意識して利用者一人ひとりに職員が寄り添って話ができるよう努めている。90過ぎの利用者が他施設に入所している息子を心配する声や「ここで死にたい」とつぶやく声など1対1になった時に聞くことが多い。表情や動作なども見逃さないよう努めており、利用者の思いは職員全員で共有し記録に残すなどして把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントを行い、本人、家族からの情報収集に努めている。まだまだ、不十分な点も多いため、今後も家族の面会時を利用しながら生活歴を把握する必要がある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員は、利用者一人ひとりの一日の過ごし方を把握しており、変化や気付きがあれば介護記録に記入し、全職員が周知できるようにしている。また、送りノートを活用し職員が把握できるよう工夫している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) サービス担当者会議には本人・家族も参加して頂き、職員側では決めず、色んな側面から課題、ケアの在り方について話し合っている。ケアプランにおいても3ヶ月に1回見直しを行い、新たなニーズもふまえ、本人や家族の要望に迅速に対応出来るよう支援しているが、職員まかせで、協力を得られない家族もいるので、これからの課題である。</p> <p>(外部評価) サービス担当者会議に利用者や家族も参加してもらい意向や要望を聞き、担当者を中心に利用者本位の介護計画を作成するよう努めている。最近では利用者が近くの橋まで散歩に行きたいと要望があり、計画に入れ実施している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、職員の意見や気付きを大切にして介護計画がより良いものになるよう努めている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) ケアプランに添った記録ができていない時もあり、モニタリングする資料としては不十分である。プランの実践、結果、気づきが利用者の生活にどれだけ重要か理解できていない職員もあり、早急に勉強会を持ち職員全員が周知できるよう指導していきたい。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 同敷地内に、デイサービス、有料老人ホームがあり、お互いに行き来し企画も合同ですることがある。また、訪問マッサージにてリハビリ的な機能訓練も行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 消防署による定期的な消防訓練（年2回）、保育所園児との交流、中・高校生による交流（体験学習）は行っているが、地域の行事に参加できていないのが現状である。地域との関わりがもてるよう改善していきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時に、かかりつけの病院、担当医の確認を行い、本 人、家族の希望に添って支援している。利用者の中 には、法人の病院ではなく、入所前の病院を受診して いる利用者も数名いる。また、受診の際には、情報 を提供し、担当医と職員の連携により、適切な医療 が受けられるよう支援している。 (外部評価) かかりつけ医の継続支援がされている。希望に応じ 母体法人の診療所に変更する場合もある。受診は基 本家族同行であるが、出来ない場合は職員が同行す るなど臨機応変に対応している。皮膚科、歯科の往 診があったり、母体法人の診療所が24時間体制を取 っており、訪問看護も利用できるなど利用者が安心 して適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 法人の医療連携担当看護師が、1週間に1回訪問し 日常的な健康管理を行っている。便秘対策、嚥下状 態も報告し、指示を仰いでいる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の医師や看護師と情報を交換しながら、今 後の対応や相談について連携を図っている。また、 職員が見舞いに行き、利用者が安心して治療が できるよう支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期に関する指針を定め、入居時に説明や医療 連携に対する同意書を得ている。また、状態変化 に合わせ、本人・家族の意向を確認しながら医 療関係者も含め、話し合いの場を設け、個別に 方針が定められるよう支援している。 (外部評価) 看取り指針を定め入所時に説明を行い、医療連 携体制同意書を交わしている。利用者の状態に 応じて医師から丁寧な説明がされている。看取 り段階の血圧や呼吸状態の変化など、母体法人 の看護師によって合同研修が行われている。緊 急時には併設のデイサービスの看護師が協力 可能である。また、施設長が待機するなどして 経験の少ない職員に不安をもたせない様配慮 されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年1回、法人の研修にて消防士による救命講習を行い、殆どの職員が、普通救命講習の認定を受けている。緊急連絡網も作成し、医療機関、家族に迅速に対応できる体制を作っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災、地震、水害の災害のマニュアルを作成し、消防署職員による非難訓練も実施している。また、放射能に対するマニュアルも作成し、第一非難場所、第二非難場所を全職員が周知しているが、地域との協力体制はできていないのが現状である。地区の消防団にも協力要請をしていきたいと思っている。 (外部評価) 年2回消防署立会いのもと避難訓練を行っている。また事業所独自の訓練を自主的に行っている。今後は夜間想定訓練を課題としている。備蓄は敷地内に併設施設があり、3日分ほどの準備が整っている。地域住民の協力体制が難しく、今後、地域住民と併せて地元消防団にも協力を呼びかけていく方針である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は入社時に、個人情報に関する制約書を交わし情報の漏洩防止に努めている。また、接遇を重きにおきながらも方言を使用し一人ひとりの人格を尊重する対応を心掛けている。また、面会簿の取り扱いについても注意を払っている。 (外部評価) 利用者一人ひとりを尊重して制限せず自分の思うようにしてもらうことにしている。ビールを飲みたいと希望があれば医療的な確認をとり提供し喜ばれている。トイレ誘導時には声の大きさなどに配慮し声かけを行っている。特に入浴や排泄場面においては、利用者の恥辱心に配慮しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の関わりの中で、言葉で本人の希望が言えなくても表情とか体全体での雰囲気を観察しながら、何を希望しているのか寄り添って表出できる環境を作ることに努めている。また、本人の考えが自己決定できるようゆっくりと傾聴する姿勢が持てるよう努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来るだけ、利用者のペースや体調を考慮しながら、対応しているが、時間帯によっては希望に添えない時もあり、カンファレンスで話し合いの場を持ち出来る限り利用者の希望に添える日常を作れるよう努力したい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみの出来る利用者には本人の希望を取り入れているが、出来ない利用者には職員が本人の希望を聴きながら対応している。また、訪問美容師によるカット、パーマも提供しており、おしゃれを楽しむ機会を作っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の食べたい物も考慮しながら、季節の物を取り入れるよう工夫しているが、職員側で決めていることが多いので一緒に献立作りが出来るよう対応していきたい。食材切り、後片づけは職員と一緒に出来ている。	
			(外部評価) 利用者の好きなものをメニューに取り入れたり、旬のものを取り入れることで季節感を味わえるよう工夫している。寿司が食べたいと要望があり近々回転寿司に行く予定である。おやつも利用者と一緒に作る事が多く、調査日も蒸しパンを美味しく頂いた。食器は自分用が用意されている。片づけや食器洗いなど利用者が出来ることは職員と共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・水分チェック表の活用により、職員全員が把握している。水分量の少ない利用者には、好みの物を提供できるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声掛けを行い、残存機能をいかした支援を行っている。自分で出来ない利用者にはガーゼ清拭による口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人の排泄パターンを把握し、意思疎通のできない利用者は行動やしぐさを観察しながらトイレ誘導を行っている。昼間はなるべくトイレでの排泄を行い、自立に向けた支援ができるよう努めている。	
			(外部評価) 日中は出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。夜間のみ利用者の状態に合わせてパットを使用している。排泄チェック表を用いて利用者一人ひとりの排泄状態を把握するよう努めている。3ヶ所あるトイレは車イスが入ってもゆとりがあるスペースで、手すりバーが設置され安全面に配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 起床時に水分補給を行ったり、散歩や体操など運動の声掛け、実施を心掛けている。なるべく薬に頼らず、センナ茶を飲用して頂いたり、頑固な便秘に対しては担当医に指示を仰いでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 自立されている利用者は、出来る限り希望に添った時間に入浴されているが、介助の必要な利用者は職員サイドで時間を決め、希望に添えない時がある。また、夜間帯の入浴を希望される利用者もいるが、足浴くらいで、利用者の意に沿っていないのが現状である。人員体制等工夫しながら真剣に考えないといけない課題である。	
			(外部評価) 週2回を基本としているが、希望があれば毎日でも入浴可能である。入浴の苦手な利用者には前日から声をかけて意識してもらったり、シャンプーとボディシャンプーの容器に分かりやすく「頭」「からだ」と書いたところ自分で洗えるようになった利用者もいる。また、同性介助に切替えたりしながら入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入居前の生活習慣を大切に、消灯時間を決めず、リビングでテレビを遅くまで観られたり、本人の生活を優先している。また、午睡の習慣のある人は、自由に休息して頂き、眠れない人には足浴を行ったり、安心して入眠できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 定期薬は病院から処方された薬を担当者が管理しており、概ね職員全員が把握しているが、新人職員の中には理解できていない所もあるので、副作用も含め勉強会を持ち早速に対応していきたい。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の準備、後片づけ、洗濯物干し、畳みを能力に応じてして頂いている。役割を持ち習慣的に行っている利用者もいる。気晴らしができるよう、外出やレクリエーションを取り入れ、利用者が退屈なく生活できるよう支援していきたい。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) なるべく利用者の希望に添えるよう支援している。買い物に行ったり、散歩したり日常の支援は概ねできているが、利用者の大半が墓参りの希望があり、家族と協力しながら現実化していきたい。 (外部評価) 事業所の敷地内や周辺の散歩をしたり、ドライブがてら買い物に行ったりしている。初詣や花見などは年間行事に組み込み支援している。お墓参りの希望が多いことからお盆にはリビングに祭壇を奉り、利用者が先祖に手を合わせることができ喜ばれた。11月には利用者が出品しているかまぼこ板展覧会に行く予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭の管理能力のある利用者は、一定の額を所持されている。家族よりお金を預かり職員が管理しているが、買い物の際には本人に財布を持って頂き、支払いできるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人希望時にいつでも電話できるよう支援している。個別的な手紙のやり取りはできていないが、年賀状など職員と一緒に作成し、家族、知人と馴染みの関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> バリアフリーが整っているため、利用者は安全に過ごすことができる。フロア内の温度差がないよう室温は細目に調節している。リビングに台所を設置しているので、まな板、包丁の音が聞こえ利用者が生活の音（馴染みの音）と接する機会が多い。	
			<p>(外部評価)</p> リビングの窓は大きく自然な光が差し込んで明るい。窓からは肱川や緑の木々が見える。対面キッチンになっており職員はリビングを見渡すことができる。施設長は特に換気には気をつけ、室温も利用者に合わせこまめに調節するよう心がけている。廊下は広く不要な物がなく、環境整備が行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> 共有スペースとして、食堂や畳の間があり、思い思いの所で、過ごして頂けるよう支援している。気の合った利用者同士が隣になり、会話を楽しむことができるよう支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> 入居時に馴染みの物、使い慣れた者を持ってきて頂くようお願いはしているが、「汚いので」と言われ新品を買って持って来られる家族もおり、家族の写真だけでも居室に飾って頂けるようお願いしている。	
			<p>(外部評価)</p> ベッド、エアコン、収納タンス、洗面台が備え付けとなっている。家族の写真やテレビ、洗面台には化粧品、電気シェイバーなど馴染みの物が持ち込まれている。以前は仏壇の持ち込みもあった。部屋の入り口には利用者の好みの絵がそれぞれに貼ってあり、名札の裏は災害時の避難確認が出来るよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> 利用者毎に「できること」「できないこと」を職員で話し合い、本来の力の取り戻しができるように支援している。例として、トイレの場所を理解するために、貼り紙をし混乱しないよう工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890700028
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム 龍星
所在地	愛媛県大洲市柚木字王子ヶ原587番地1
自己評価作成日	平成27年7月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四方山に囲まれ、近くに肱川も流れており、四季折々の風景を見ることができ、身近に四季を感じることができる環境である。夏には、居室より窓越しに花火観賞もでき、利用者様の楽しみとなっている。事業所で力を入れていることは、利用者様との係わりを大切に、喜怒哀楽を共有することである。利用者さま一人ひとりの入所前の生活(楽しみ)が継続できるよう支援している。飲酒、喫煙も家族と相談しながら対応している。医療においても、週1回の医療連携看護師の訪問、担当医師の定期的な往診により、日常の健康管理や緊急の場合も迅速に対応できるような体制ができている。また、利用者様のサービス計画書においても、職員の考えで作成するのではなく、本人・家族さまの意向も配慮しながら、一緒に作成している。サービス担当者会議に出席できないご家族には事前に意見・意向を伺いながら作成できるよう努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 9 月 3 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は肱川を見下ろす高台に位置し毎年水天宮花火大会が鑑賞でき事業所の楽しいイベントの一つになっている。施設長はじめ職員は利用者に家庭の延長として出来ることはしてもらい自由に過ごしてほしいと願い、時間のゆるす限り利用者に寄り添い傾聴を心がけて利用者本位の支援に努めている。施設長や管理者が移動交代となり事業所も開設して10年を迎えることから初心に返り、地域とのかかわりを深めながら事業所の発展を目指す覚悟が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム龍星

(ユニット名) 第2ユニット

記入者(管理者)

氏名 佐々木 愛

評価完了日 平成27年 7 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所の理念とホームでの年間目標、スタッフそれぞれの個人目標を玄関先に提示、毎日確認出来るようにしており、よりよいホーム作りに努めている。	
			(外部評価) 利用者第一である法人の方針を基本にして事業所の理念が作成されている。また、年間目標を掲げ利用者とかかわり方や言葉づかいなどを念頭におき、利用者本位の生活ができるよう支援している。朝礼時に職員全員で唱和し意識づけを行っている。同時に職員の個人目標を定め、年度末に自己評価を行うなど、より良い支援ができるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 組み入りしている地域の会合や奉仕活動への参加がまだまだできていないのがこれからの課題である。 地域の保育所や中学校とは行事を通じて交流出来ている。	
			保育園児の訪問で歌や踊りの披露があり、利用者の楽しみとなっている。また、中学生のボランティアの受け入れを行っている。地域との交流が少ない現状で施設長が交代したこともあり、挨拶を兼ね地域との付き合いが出来るよう出向く方針である。	施設長が異動交代し、事業所と地域との交流が少ないと認識していることから、新管理者と共に地域に向けて事業所の情報発信に努め、地域の中の事業所となるよう期待したい。地域交流が増えることで、運営推進会議への参加や防災訓練などにも協力体制ができることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) まだまだ地域の方への理解に向けて具体的な行動は出来ていない。避難訓練等の企画を通じて、地域の方に理解や支援を深められないか計画中である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二か月に一度実施している。回ごとにご家族を変えて声掛けし参加いただき、取り組みの報告を行い意見をいただけるようにしている。 まだまだ全体に参加者が少ないため、学校関係者や警察等各機関に参加を呼びかけていきたい。	
			(外部評価) 運営推進会議には利用者や家族、民生委員、市職員、他事業所の参加があり、事業所の説明や活動報告、時には病気についての勉強を題材に入れ会議が行われている。他事業所とは情報交換ができ貴重な意見を聞くことができている。今後は地域とかかわりながら、参加者が固定しないよう多様な意見が聞けるよう取り組む方針である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市担当者に運営推進会議に参加いただき、事業所の報告や意見交換を行っている。 介護相談員の訪問があり、利用者との交流も行われている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市職員の参加があり、事業所の様子を知ってもらうなど良い関係が出来ている。今年担当者が交代したが連絡事項などスムーズにできている。ヒヤリハットの報告も迅速に行われている。また定期的に介護相談員を受け入れ、利用者の話しをゆっくり聞いてもらうことができている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束のマニュアルを作成、事業所内で勉強会を開催し、スタッフ間で身体拘束に関する知識を深めている。帰宅願望の強い利用者は今はおられず、日勤帯は玄関の施錠を行っていない。	
			(外部評価) 現在、帰宅願望がある利用者には職員が寄り添い一緒に玄関先に出たり、家族に電話をして声を聞いてもらうなどの対応をしている。また威圧的な言動、命令口調などにならないよう注意を払い、慣れ親しんだ方言を使うことで穏やかな会話ができています。勉強会や研修等にも参加しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) その日の態度や言葉遣いが適切でなかった場合、日頃よりスタッフ同士で注意しあい防止に努めている。 入浴時や更衣時に利用者の体に異常がないか観察も行っている。 虐待をテーマにあげ、事業所内で勉強会を行った。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に権利擁護を利用している利用者はいないが、事業所全体で勉強会を行った。それでもまだスタッフは詳しい内容までは把握しきれていない。 理解を深めるため、何度も勉強会を行っていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約に関しては管理者が行っている。 事前調査だけでなく施設見学の際に説明を行い、利用者本人や家族に納得、同意していただけるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時や電話連絡の際に意見や要望をその都度聞き、その際に苦情が出たら書面に残し、改善反映出来るように努めている。 遠慮なく意見を頂けるような雰囲気作りも心がけている。 面会用紙にも要望の欄を作成している。	
			(外部評価) 家族から「母をおしゃれにしてほしい」との意見があり職員と話し合ったところ、利用者が好む服は固定していたため家族はいつも同じ服を着ていることが多いと勘違いされたのだろうと気付かされたこともあった。面会時には少しでも意見や要望を聞くよう努めている。担当者会議も家族の都合のいい日を選んでもらうことで参加しやすく意見が出るように工夫している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日頃よりスタッフが意見や提案が出せるよう、管理者は話しやすい雰囲気を心がけている。 毎月の業務カンファレンスやケアカンファレンスで意見交換の場を設けている。 (外部評価) 職員からは活発な意見が出ている。漬物上手な利用者に先生になってもらい漬物づくりをしたこと、お盆に祭壇をかざって先祖供養したこと、花火大会前に事業所周辺の片付けをしたことなど、利用者の声を聞きながら意見を出し積極的に行動に移している。新施設長、新管理者と職員の関係性はとても良く、施設長は職員の話をよく聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者含めスタッフ個々の能力や努力の評価を行い、給与形態に反映されている。 管理者会議でも職場環境について話し合いが行われた。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月、事業所内でスタッフが各々テーマを決め勉強会を行っている。年に二回は事業所全体で、外部より講師を招いた研修も行っている。 社外の研修会にも希望者を優先し、スタッフ全員が順番に参加できるようスケジュールを組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 月に一度、各施設長やホーム長参加の会議を開き、意見や情報交換の場を設けている。 企画を通じて、他事業所との交流を行っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査や施設見学の際に本人の不安な思いを傾聴し、少しでも不安を軽減、安心していただけるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 各担当者からの情報や事前調査、施設見学時に十分な時間を取り、信頼関係を築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の要望や意向を聞き、各担当者からの情報を集めた上で、スタッフと話し合い支援できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 毎日の暮らしの中で楽しみを共有したり、利用者が中心となって漬物や梅酒、園芸を通して野菜作りを行い、手順や工夫等を教えていたりしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の状況を手紙に書き、行事報告や行事予定を記したホームの新聞を共に送り、状況を把握出来るようにしているが、ケアプラン等ご家族と共に考えるのではなく、ホーム任せの事が多い為、共に支え合う関係を築くことが課題である。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力の中、個人で外出を行っている。 企画での外出時、ドライブを兼ねて馴染みの場所を走ったりしているが家族以外の馴染みの方の面会は少ない。	
			近所の方が時々訪問してくれる利用者もいるが、馴染みの人や場所が希薄なのが現状である。行事イベントなどはデイサービスと合同で行うことから、利用者同士や職員との新しい関係もできている。先日、利用者が漬けた漬物が出来上がり退職した職員に食べてもらいたいと電話をかけ、取りに来てもらったと微笑ましいやり取りがあった。施設長や管理者は、継続して支援できるよう努力していきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の関係を把握し、利用者同士がトラブルにならないように食事の席等配慮している。 どうしてもトラブルになる事はあるが、利用者の中にスタッフが入り、片方が孤立することがないように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院で退去になった場合は、状態に応じてお見舞いに行くようにしている。 家族が遠慮なく相談できるように、サービス利用の間に信頼を深めていきたい。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者との関わりを持ち、個人の声に耳を傾けている。要望があれば申し送りノートに記録し、毎月のケアカンファレンスで利用者全員について話し合いを行っている。 (外部評価) 意識して利用者一人ひとりに職員が寄り添って話しができるよう努めている。90過ぎの利用者が他施設に入所している息子を心配する声や「ここで死にたい」とつぶやく声など1対1になった時に聞くことが多い。表情や動作なども見逃さないよう努めており、利用者の思いは職員全員で共有し記録に残すなどして把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 担当者や本人、家族から話を聞き、これまでの生活について情報収集を行い、スタッフが把握できるように努めている。 家族が面会に来られた時等、その都度話を聞き理解を深めていきたい。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の中での変化や気付き、利用者の言動などを、その都度記録に残し、申し送りでスタッフが把握出来るように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <p>利用者ごとの担当職員と計画作成担当者、管理者が家族の意向を交えケアプランの原案を作成し、カンファレンスを通してスタッフ全員で意見を言い合い作成している。カンファレンスには家族にも参加いただいているが、まだ一部の方のみなので協力を仰ぎたい。</p> <p>(外部評価)</p> <p>サービス担当者会議に利用者や家族も参加してもらい意向や要望を聞き、担当者を中心に利用者本位の介護計画を作成するよう努めている。最近では利用者が近くの橋まで散歩に行きたいと要望があり、計画に入れ実施している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、職員の意見や気付きを大切にして介護計画がより良いものになるよう努めている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>介護記録にプランを取り入れ、細かく記録するように努めているがまだまだ不十分である。個別記録の記入の仕方、記録を通してのプランの見直し方等スタッフ全員が理解できるよう、勉強会を計画中である。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>同施設内にはデイサービスがあり、企画を共に行っている。敷地内にも有料老人ホームがあるが、交流は少ない為、合同の企画を相談しながら進めていきたい。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>地元保育所との交流、中高生の職場体験やボランティアの受け入れ、消防署による消防訓練を定期的に行っているが、こちらから積極的に地域の行事には参加しきれない。地域の方と交流が持てるよう、努めていきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時にかかりつけ医に関して意向を確認し、家族や本人の 希望に合わせている。 医療連携にある病院の往診や受診を適宜行い、担当医と職員 が連携し、適切な医療が受けられるように努めている。	
			(外部評価) かかりつけ医の継続支援がされている。希望に応じ母体法人 の診療所に変更する場合もある。受診は基本家族同行である が、出来ない場合は職員が同行するなど臨機応変に対応して いる。皮膚科、歯科の往診があったり、母体法人の診療所が 24時間体制を取っており、訪問看護も利用できるなど利用 者が安心して適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎月、医療連携担当看護師が利用者の状態を観察して、日常 的な健康管理を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療連携体制の病院と速やかに調整を行い、安心して入退院 を行えるように努めている。その都度、必要な申し送りを行 い、面会を通して、その時々状況を把握できるように努め ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に話し合いを行い医療連携体制の同意をいただきなが ら方針を検討している。 状況変化に対応した話し合いを持つように注意し、統一した ケアに当たれるように心がけている。	
			(外部評価) 看取り指針を定め入所時に説明を行い、医療連携体制同意書 を交わしている。利用者の状態に応じて医師から丁寧な説明 がされている。看取り段階の血圧や呼吸状態の変化など、母 体法人の看護師によって合同研修が行われている。緊急時 には併設のデイサービスの看護師が協力可能である。また、施 設長が待機するなどして経験の少ない職員に不安をもたせな い様配慮されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年に一回、消防士による救命講習を行い、ほとんどの職員が普通救命講習の認定を受けている。 緊急連絡網を作成し、各スタッフが対応出来るようように指導している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 同敷地内にあるデイサービスと合同で、消防署職員による避難訓練を実施している。 災害マニュアルも作成しているが、地域との協力体制がまだまだなため、これからの課題である。 (外部評価) 年2回消防署立会いのもと避難訓練を行っている。また事業所独自の訓練を自主的に行っている。今後は夜間想定訓練を課題としている。備蓄は敷地内に併設施設があり、3日分ほどの準備が整っている。地域住民の協力体制が難しく、今後、地域住民と併せて地元消防団にも協力を呼びかけていく方針である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) スタッフは利用者一人一人に丁寧な声掛けや態度で接せるように注意している。 入社時や異動時に個人情報に関する契約書を交わし、情報漏えいに努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりを尊重して制限せず自分の思うようにしてもらうことにしている。ビールを飲みたいと希望があれば医療的な確認をとり提供し喜ばれている。トイレ誘導時には声の大きさなどに配慮し声かけを行っている。特に入浴や排泄場面においては、利用者の恥辱心に配慮しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が決める力を大切にし、本人の意向を確認出来るよう時間をかけながら傾聴し、時には身振り手振りで自己決定を促すように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事はみんな一緒にを心がけているが、各個人によってその人のペースを優先している。 その日その日で利用者の状況や体調を汲み取り、希望に沿った支援が行えるよう努めていきたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 希望者には出張美容師を手配し、カットを行っている。 身だしなみが出来る利用者には本人の希望を取り入れ、服装も本人が着たいものを自由に選んでいただいている。出来ない利用者にも本人の希望を聞き、支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) スタッフは利用者と同じ食卓を囲み、会話を楽しみながら食事をしている。 献立を作る際に、個々の嗜好に合わせたメニューで提供している。 食事の準備や片づけも、出来る利用者と一緒にしている。 (外部評価) 利用者の好きなものをメニューに取り入れたり、旬のものを取り入れることで季節感を味わえるよう工夫している。寿司が食べたいと要望があり近々回転寿司に行く予定である。おやつも利用者と一緒にすることが多く、調査日も蒸しパンを美味しく頂いた。食器は自分用が用意されている。片づけや食器洗いなど利用者出来ることは職員と共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・水分チェック表に記録し、毎日の摂取量を把握している。水分の少ない利用者や食事を食べようとしていない利用者には好みのものを提供し支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きやうがいの声掛けを行い、場合によっては介助を行っている。 義歯には洗浄剤でつけおきし、清潔を保っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を利用して、利用者一人一人の排泄パターンを把握、失禁等の失敗を少なくし、なるべくトイレで排泄が目指せるように努めている。	
			(外部評価) 日中は出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。夜間のみ利用者の状態に合わせパットを使用している。排泄チェック表を用いて利用者一人ひとりの排泄状態を把握するよう努めている。3ヶ所あるトイレは車イスが入ってもゆとりがあるスペースで、手すりバーが設置され安全面に配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表で排泄パターンを把握し、便秘の方には繊維質の多い飲み物を提供、水分補給もこまめに行うようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の拒否がある方には、声かけのタイミングや対応を工夫して入浴していただけるようにしている。入浴が難しい方は洗髪や手浴、足浴、清拭にて対応している。	
			(外部評価) 週2回を基本としているが、希望があれば毎日でも入浴可能である。入浴の苦手な利用者には前日から声をかけて意識してもらったり、シャンプーとボディシャンプーの容器に分かりやすく「頭」「からだ」と書いたところ自分で洗えるようになった利用者もいる。また、同性介助に切替えたりしながら入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 食後に自室にて休息を取られる方がおられたり、就寝前にはテレビを見たり、家より持参された自家製の梅酒を飲まれたりして過ごされ、室温調節を行いながら安眠を促している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各スタッフが処方箋を確認、服薬表を作成し把握に努めている。 利用者一人一人で薬袋を作り、名前と日付を記入し誤薬のないように工夫している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 各利用者の状態に合わせて洗濯物たたみや台拭き、お盆拭き等、役割を持って生活していただけるようにしている。 本人の希望を取り入れ、屋上にてプランターで野菜を栽培、スタッフとともに世話をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節に応じて花見等の企画を行い、家族の協力を得ながら外出出来るように支援している。 天気の良い日は希望者と敷地内の散歩に出かけている。	
			(外部評価) 事業所の敷地内や周辺の散歩をしたり、ドライブがてら買い物に行ったりしている。初詣や花見などは年間行事に組み込み支援している。お墓参りの希望が多いことからお盆にはリビングに祭壇を奉り、利用者が先祖に手を合わすことができ喜ばれた。11月には利用者が出品しているかまぼこ板展覧会に行く予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者個々の希望が見られず管理自体が難しい為、スタッフが管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば、いつでもスタッフが間に入り取次ぎをしている。 年賀状の作成もスタッフと一緒にやっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 建物の4階にあるため、窓からの景色に開放感がある。フロアの壁面に季節に応じた壁画を飾ったりしている。バリアフリーのため、利用者が安全に過ごせるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) リビングの窓は大きく自然な光が差し込んで明るい。窓からは肱川や緑の木々が見える。対面キッチンになっており職員はリビングを見渡すことができる。施設長は特に換気には気をつけ、室温も利用者に合わせこまめに調節するよう心がけている。廊下は広く不要な物がなく、環境整備が行き届いている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 個室の他に畳や食堂といった共有スペースがあり、思い思いの場所で過ごせる場所を提供している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室にはベッドやエアコン、収納ダンスと洗面台が備え付けであり、本人の使い慣れたものを持ち込んでいただき、毎日の掃除で清潔を保ち、居心地よく過ごせるように努めている。</p> <p>(外部評価) ベッド、エアコン、収納ダンス、洗面台が備え付けとなっている。家族の写真やテレビ、洗面台には化粧品、電気シェイバーなど馴染みの物が持ち込まれている。以前は仏壇の持ち込みもあった。部屋の入り口には利用者の好みの絵がそれぞれに貼ってあり、名札の裏は災害時の避難確認が出来るよう工夫されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレや自室が分かるように貼り紙をしている。浴室やトイレ、廊下には手すりや呼び出しコールがあり、利用者に応じて活用している。</p>	